

## 小さな拠点づくり



さんべい かつとし  
三瓶 一壽 議員



質問者の録画映像  
はこちらから

Q

小さな拠点の具体的なイメージは

A

地域ごとに交流の場を設け、支え合いの仕組みづくりを進めるイメージ

三瓶

三春町が考えているコンパクトシティのあり方をたずねた時に、三春町の居住空間は7つの地区に分けられ、多くの方が居住している旧町内・岩江地区と、他の5地区に分けて検討する必要があると答弁があった。これら5地区において、町の考える「小さな拠点」の具体的なイメージとは何か。

町長

人口減少や少子高齢化が進み、社会情勢が大きく変化していく中で、地域を維持していくために必要な取組み、一人ひとりの住民が豊かな日常生活を営めるような支え合いの仕組みや環境づくりをイメージしている。地域と行政が、それぞれの役割の中で協働して取り組むための拠点としては、人々が良く集まる地域の公民館や小学校などが考えられる。西日本の過疎が進んでいる山村地区などでは、もうすでにそう



<参考事例:中郷学校>  
みんなで考えよう!小さな拠点に必要な機能

いった活動に取り組んでいる実例があるので参考としたい。三春町では今、学校再編で廃校となる施設等の再利用について、庁内でプロジェクトチームをつくり、地区の方々の意見も十分参考にして取り組もうとしている。

## 公共交通



すずき としかつ  
鈴木 利一 議員



質問者の録画映像  
はこちらから

Q

全体の考え方は

A

バスやタクシーなど様々な組み合わせで考える

鈴木

10月から実証運行している定額乗合タクシー「こまシェア」の利用者数は。

住民課長

現在の登録者は37名であり、目標の50名には達していない。

鈴木

何名登録すると定着したと考えるか。

住民課長

50名は民間事業者の採算性を考えた人数設定である。

鈴木

「こまシェア」の運行には国の補助金が入っているが、いつまで続くのか。

住民課長

次年度以降についても利用できるように、国へ申請を行っていく。

鈴木

茨城県大子町では乗合タクシーで運行しており登録者は1600名で、一回300円・夜間は500円で運行している。この



定額乗合タクシー「こまシェア」



三春町営バス

ような運行方法は考えられないか。

住民課長 今行っている実証運行の検証を行い、回数での運行が可能か今後検討する。

鈴木 町全体の公共交通の考え方は。

住民課長 人口が集中する地域の公共交通は町営バスを軸にして、町営バスでカバーできない部分は「こまシェア」や「おでかけ応援隊」、民間タクシーなどの組み合わせで交通体系を考えていく。